

岡垣の教育 岡垣東中学校⑩

— 創立10周年ころまで —

岡垣歴史文化研究会 入江 東樹

創立10年次は、平成2年度である。4月5日の始業式は、職員数25名、生徒数47名、14学級でスタートした。11月25日に、創立10周年記念式典などが行われた。

【記念碑の除幕式】

玄関前に建立された記念碑には、「探究(学ぶ喜び)、剛健(生き抜く力)、誠実(生命の証)」と刻まれている。これは、校訓と校歌の一部が取り入れられた。揮毫は、2代校長太田満氏による。

式では、実行委員長の岩本松樹氏と下田寅雄校長の挨拶、生徒会長白石英美君のお礼の言葉があった。最後に、校歌を斉唱した。

【記念音楽会】

福岡教育大学管弦楽団による「おもちゃのシンフォニー」(モーツァルト作曲)などが演奏された。

【記念式典と祝賀会】

式典で、10周年の記念事業の報告がなされた。

東中校友会誌「やはぎ」第6号(平成2年度)に、校長とPTA会

長が「巻頭言」を寄せている。その一部を紹介する。

下田校長は「門送」と題して、「門送とは門出を見送ること、門口まで見送ることなどの意味がある。

この度、10周年記念事業推進実行委員会のご努力により、すばらしい記念碑を建てていただいた。この記念碑が「お早う、今日も一日、学問に励み、健康な体をつくり、ぬくもりのある友情を育てよう」と声援を送っている。また、帰りには「今日も一日頑張ったね。無事に帰宅し、明日も元気に登校しよう」と門送してくれる。

この温かい心に支えられての学校生活を送れる幸せを大切にし、自らの目標に向かって前進し、平和で豊かな社会、そして、国際社会に貢献できるための基礎を築いてほしい。

バン格拉デッシュという国では、毎日約2400人の子どもたちが死亡しているそうだ。学校に行けない子どもたちもいる。門送とい

う言葉の中にある温かい人と人とのぬくもりを、世界の人と人との交わりの中でも大切にできるように努力しよう」と述べている。

PTA会長の大石峯雄氏は「自分の人生の目標」と題して、「10周年の節目に卒業される皆さんと在校生の皆さん、『自分の人生の目標』をもってほしい。

私の中学時代、小学校3年のときに、炭坑事故によって、父親を亡くしたT君がいた。中学生になつて、担任の先生からこれから自分の目標について発表させられたとき、幼い2人の妹たちのために父親になりたいといった。すると、ほかの級友から笑われた。その後、T君は新聞配達をして、家計を助けた。

中学卒業後は、鉄工所で働きながら、定時制高校を卒業した。現



▲記念碑前で校歌斉唱。「東中10周年史」から援用

在は、一流企業の管理職として頑張っている。彼は「私の人生は目標があるから、楽しい一日がある」と語った。そのT君の言葉が、私の胸に焼き付いている。

失敗もあるかもしれないが、その反省が次の目標に向かっての原動力になる。皆さんはまだ若い、これからの自分の人生が待っている。未知なものへの希望に向かって、生きていくことになる。強い精神力で「自分の人生の目標」に向かって、努力してほしい」と述べている。